

第 1176 回放送分『整形外科疾患』3 回目

ゲスト：田邊 史ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「整形外科疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 田邊 史（たなべ ふみと）ドクターです。

田邊さん、よろしくお願いいたします。

田邊史Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、椎間板ヘルニアについてお話しいただきました。

突然発症することが多く、MRI でどの場所にヘルニアがあるのかを

診断するのが大切で、最初はコルセットと痛み止めの飲み薬、ブロックで治療し、

6、7 割の方は 2 週間以内に良くなるケースがあるとのことでした。

そして、2 週間を過ぎても痛みが続く場合は、内視鏡手術になるということでした。

今日は何についてお話しいただけますか。

田邊史Dr.

今日は、腰部脊柱管狭窄症についてお伝えいたします。

二見いすず

第 1 週で、病院へ来院すべき腰痛として、椎間板ヘルニアと

この腰部脊柱管狭窄症があるというお話でしたよね。

田邊史Dr.

はい。

二見いすず

腰部脊柱管狭窄症はどんな症状が出るのでしょうか？

田邊史Dr.

症状は両足に出ます。加齢に伴い骨が変形して脊柱管が狭まり、

神経が圧迫されるため、歩くときに痛みやしびれが出てきます。

それでも座って休憩すればまた歩けるのですが、長い距離が歩けなくなります。

二見いすず

歩いて、休憩して、また歩いてということなんですね。

そうするとこれまで普通に行っていた生活や習慣などが

難しくなることがありますよね。

田邊史Dr.

はい。ちなみに腰部脊柱管狭窄症の方は、前かがみで歩くと痛くないのでシルバーカーやショッピングカートなどを押して歩く方が多いです。また自転車に乗る時も前屈みなので乗れる人が多いです。

二見いすず

前かがみの体勢だと大丈夫なんですね。  
年代としては、どのあたりの方が多いのでしょうか？

田邊史Dr.

60代、70代の方が多いです。  
先ほどのような症状が出たら、来院してMRI検査を受けてください。

二見いすず

治療はどのようなことをするのでしょうか？

田邊史Dr.

腰が原因ですので安静目的で、まずはコルセットをして  
痛み止めの飲み薬を飲んでいただきます。  
椎間板ヘルニアほど、ブロック注射は効きません。

二見いすず

椎間板ヘルニアの場合、6、7割はそのまま自然に  
良くなることもあるとのことでしたが、腰部脊柱管狭窄症はどうですか？

田邊史Dr.

腰部脊柱管狭窄症の場合は、自然に良くなることは少ないです。  
日常生活に大きく支障が出てきた場合は手術になります。  
手術は神経を圧迫されている箇所が1箇所ではなく数箇所の場合が多く、  
内視鏡ではなく切開しての手術となることが多いです。  
しかし手術機械が進歩し、10年前よりは小さな傷で  
体に優しい手術が行えるようになっております。

二見いすず

よく分かりました。  
今月は、「整形外科疾患」をテーマにお送りしています。  
お話は、鹿児島県医師会 田邊 史ドクターでした。  
田邊さん、ありがとうございました。

田邊史Dr.

ありがとうございました。